

文献目録

奄然・清凉寺・清凉寺式釈迦像関係文献目録

川 添 昭 二・森 哲 也 編

本目録は、最初の入宋僧と考えられる奄然、彼がその建立を志した清凉寺、彼によって宋から請来された清凉寺釈迦如来像、およびその模刻である清凉寺式釈迦像に関する川添昭二氏作成の文献カードをもとに、森哲也が現物の確認・追補を行い作成したものである。個別にまとめることも考えられたが、内容的に相互に関連する場合もあるため、このような形を採った。追補の手が及ばなかった点も含め最終的な文責は森にある。また、文献の追補・確認・収集にあたり、大島憲征、生島修平、嶋本尚志、藤田理子、古川順大、吉永匡史各氏（順不同）の御教示・御協力を得た。記して感謝申し上げる。

【凡例】

1. 内容は上記の通りであるが、原則として絵巻『釈迦堂縁起（清凉寺縁起）』そのものを主題とするものは含まれず、美術全集の作品解説や辞典項目等も同様である。なお、清凉寺釈迦如来像の源流を考える上で優填王思慕像（優填王像）に関する文献も収録した。
2. 採録は2008年3月までに公表された文献を原則とし、その後に発表されたものは気付いた範囲で収録した。
3. 常用漢字体、新字体を原則としたが、「清凉寺」、「清涼寺」の表記については原文のままとした。

編 著 者	論 著	出典・発行所	年.月	備 考
日下大癡	奄然法師の小伝	『六条学報』第56号	1906.6	
細川潤次郎	『入宋三僧伝』		1910.	同『十洲全集 第3巻』所収（細川一之助、1927.10）
津田敬武	『釈迦像の研究』	聚精堂	1911.5	同『釈迦像の芸術史的研究』と改題・重版（言誠社書店、1922.7）
鷲尾順敬	史話	『仏教史学』第1編第10号	1912.1	
無能生	清算か盛算か	『仏教史学』第1編第11号	1912.2	
寺本婉雅	支那の梅檀瑞像	『仏教史学』第2編第3号	1912.6	
瀧精一	印度芸術の東亜に及ぼせる影響に就て（上）（下）	『国華』第311号、第312号	1916.4、5	
松本文三郎	清凉寺釈迦像に就て	『史林』第1巻第4号	1916.10	同『仏教芸術とその人物』所収「清凉寺釈迦像」（同文館、1923.5）
中川忠順	（彙報）僧奄然と嵯峨の釈迦像	『史学雑誌』第27編第11号	1916.11	
高楠順次郎	成尋所記入宋諸師伝考一 奄然寂照伝考	『大日本仏教全書 遊方伝叢書第3』（仏書刊行会）	1917.10	第一書房復刻、1979.1。名著普及会覆刻、1980.3。財団法人鈴木学術財団編『大日本仏教全書 第73巻 史伝部12』（同財団、1972.5）
高楠順次郎	遊方伝叢書第二解題	『仏書研究』第37号	1918.1	

高楠順次郎	遊方伝叢書第三解題（大日本仏教全書第一百三十冊）	『仏書研究』第39号	1918.3	
妻木直良	開宝勅版の宋版大蔵經に就いて	『史林』第4巻第2号	1919.4	
戸部隆吉	釈迦念仏と釈迦堂本尊の模刻（其一）	『東京美術学校校友会月報』第18巻第7号	1920.1	堀口蘇山編・同『日本仏教美術之研究』（芸苑巡礼社、1929.7）所収「釈迦念仏と釈迦堂本尊の模刻」
戸部隆吉	鎌倉時代に於ける嵯峨釈迦像模刻の流行と釈迦念仏	『仏教学雑誌』第1巻第1号	1920.6	堀口蘇山編・同『日本仏教美術之研究』（芸苑巡礼社、1929.7）所収「鎌倉時代に於ける清凉寺本尊の模刻の流行と釈迦念仏」
戸部隆吉	鎌倉時代に於ける清凉寺本尊の模刻と釈迦念仏（二）	『仏教学雑誌』第1巻第3号	1920.9	堀口蘇山編・同『日本仏教美術之研究』（芸苑巡礼社、1929.7）所収「鎌倉時代に於ける清凉寺本尊の模刻の流行と釈迦念仏」
仲田勝之助	清凉寺の釈迦像について	『中央美術』第8巻第4号	1922.4	
仲田勝之助	清凉寺の釈迦像について（下）	『中央美術』第8巻第6号	1922.6	
高楠順次郎	入唐諸家伝考第六 法濟大師斎然伝考	『大日本仏教全書 遊方伝叢書第4』（大日本仏教全書発行所）	1922.6	第一書房復刻、1979.1。名著普及会復刻、1980.3。財団法人鈴木學術財団編『大日本仏教全書 第68巻 史伝部7』（同財団、1972.3）
橋本進吉	斎然法橋在唐記の逸文	『密教研究』第13号	1924.6	同『橋本進吉博士著作集 第12冊 伝記・典籍研究』所収（岩波書店、1972.5）
源豊宗	清凉寺の釈迦像	『仏教美術』創刊号	1924.11	
西岡虎之助	斎然の入宋に就いて（第一回）～（第三回完）	『歴史地理』第45巻第2号、第3号、第5号	1925.2、3、5	同『西岡虎之助著作集 第3巻 文化史の研究Ⅰ』所収「斎然の入宋について」（三一書房、1984.3）
西岡虎之助	斎然の日記の逸文	『歴史地理』第45巻第3号	1925.3	同『西岡虎之助著作集 第4巻 文化史の研究Ⅱ』所収（三一書房、1987.6）
西岡虎之助	斎然と三学宗の建立	『歴史地理』第46巻第1号	1925.7	同『西岡虎之助著作集 第3巻 文化史の研究Ⅰ』所収（三一書房、1984.3）
大屋徳城	宋板一切經の請来と斎然及び重源	『寧楽』第5号	1926.2	同『日本仏教史の研究1』所収（東方文献刊行会、1928.2。法蔵館再版、1951.12）。同『大屋徳城著作選集 第2巻 日本仏教史の研究1』所収（国書刊行会、1987.9）
塚本善隆	嵯峨參籠－清凉寺に就いて－	『摩訶衍』第11巻	1932.3	同『塚本善隆著作集 第7巻 浄土宗史・美術篇』所収「法然上人の嵯峨參籠と清凉寺小史」（大東出版社、1975.11）
栗栖植	文永五年銘清凉寺型釈迦像の発見	『史迹と美術』第24号	1932.11	
岡直己	檀像様式とその史的発展に就いて	『密教研究』第67号	1938.9	
和田英松	斎然在唐記	同編・森克己校訂『国書逸文』（森克己）	1940.4	同纂輯・森克己校訂・国書逸文研究会編『新訂増補 国書逸文』（国書刊行会、1995.2、増補担当は竹居明男）
田中重久	西大寺創立の研究	『考古学評論 第3輯 仏教考古学論叢』	1941.6	
川勝政太郎	栖霞寺・清凉寺小考	『史迹と美術』第154号	1943.9	
藤田元春	斎然の入唐	同『上代日支交通史の研究』（刀江書院）	1943.9	
田中重久	『日本に遺る印度系文物の研究』	東光堂	1943.9	
下店静市	再び五台山文殊に就いて	『美術史学』第88号	1944.4	国書刊行会復刻、1977.1。同『日本絵画史研究』所収（富山房、1948.6）
中村直勝	従一位富子と堺の衆－清凉寺の鐘銘－	『史迹と美術』第239号	1954.2	

川勝政太郎	清凉寺銅鐘と銘文	『史迹と美術』第239号	1954.2	
沖永定伸	嵯峨釈迦堂の開山齋然についての一考	『仏教学紀要』第3集	1954.3	
小林剛	唐招提寺礼堂釈迦如来像納入文書	『大和文化研究』第2巻第3号、第4号	1954.6、8	
塚本善隆	清凉寺釈迦像封蔵の東大寺齋然の手印立誓書	『仏教文化研究』第4号	1954.7	同『塚本善隆著作集 第7巻 浄土宗史・美術篇』所収(大東出版社、1975.11)
塚本俊孝	宋初の仏教と齋然	『仏教文化研究』第4号	1954.7	塚本善隆『塚本善隆著作集 第7巻 浄土宗史・美術篇』所収(大東出版社、1975.11)
塚本善隆	嵯峨清凉寺釈迦像封蔵品の宗教史的意義	『印度学仏教学研究』第3巻第1号	1954.9	
塚本善隆	(学界展望) 清凉寺釈迦如来像納入品	『美術史』第15・16冊	1955.5	
木宮泰彦	北宋との通交	同『日華文化交流史』(富山房)	1955.7	
塚本善隆	嵯峨清凉寺史 平安朝篇 - 棲霞、清凉二寺盛衰考 -	『仏教文化研究』第5号	1955.11	同『塚本善隆著作集 第7巻 浄土宗史・美術篇』所収(大東出版社、1975.11)
塚本俊孝	嵯峨清凉寺に於ける浄土宗鎮西流の伝入とその展開 - 清凉寺史近世篇 -	『仏教文化研究』第5号	1955.11	塚本善隆『塚本善隆著作集 第7巻 浄土宗史・美術篇』所収「嵯峨清凉寺史 近世篇 - 嵯峨清凉寺における浄土宗鎮西流の伝入とその展開 -」(大東出版社、1975.11)
佐藤春夫	釈迦堂物語(連載第一回)～(完結)	『心』第9巻第1号～第12号	1956.1～12	同『釈迦堂物語』(平凡社、1957.6)
塚本善隆	嵯峨清凉寺を中心とした仏教の動向	『印度学仏教学研究』第4巻第2号	1956.3	
塚本善隆	融通念仏宗開創質疑 - 清凉寺をめぐる融通念仏聖の活動 -	『日本仏教学会年報』第21号	1956.3	同『塚本善隆著作集 第7巻 浄土宗史・美術篇』所収「融通念仏宗開創質疑 - 清凉寺をめぐる融通念仏聖の活動 -」(大東出版社、1975.11)
森田幸門	清凉寺釈迦胎内五蔵研究序説(清凉寺釈迦胎内五蔵研究 第一報)	『日本医史学雑誌』第7巻第1～3号(清凉寺釈迦像胎内五蔵研究特集号)	1956.9	
石原明	五蔵入胎の意義について(清凉寺釈迦胎内五蔵研究 第二報)	『日本医史学雑誌』第7巻第1～3号(清凉寺釈迦像胎内五蔵研究特集号)	1956.9	
渡辺幸三	清凉寺釈迦胎内五蔵の解剖学的研究 - 中国伝統医学よりの研究 - (清凉寺釈迦胎内五蔵研究 第三報)	『日本医史学雑誌』第7巻第1～3号(清凉寺釈迦像胎内五蔵研究特集号)	1956.9	
石原明	印度解剖学の成立とその流伝(清凉寺釈迦胎内五蔵研究 第四報)	『日本医史学雑誌』第7巻第1～3号(清凉寺釈迦像胎内五蔵研究特集号)	1956.9	
渡辺幸三	現存する中国近世までの五蔵六府図の概説(清凉寺釈迦胎内五蔵研究 第五報)	『日本医史学雑誌』第7巻第1～3号(清凉寺釈迦像胎内五蔵研究特集号)	1956.9	
和田清・石原道博	『旧唐書倭国日本伝・宋史日本伝・元史日本伝』	岩波書店	1956.9	
小林剛	仏師善円・善慶・善春	『仏教芸術』31号	1957.3	
塚本俊孝	嵯峨釈迦仏の江戸出開帳について	『仏教文化研究』第6・7号	1958.3	
毛利久	清凉寺釈迦像変遷考	『仏教芸術』35号	1958.8	同『日本仏教彫刻史の研究』所収(法蔵館、1970.5)
毛利久	清凉寺式釈迦像現存表	『史迹と美術』第285号	1958.8	
毛利久	平安時代の檀像について	『史窓』第13号	1958.8	同『日本仏教彫刻史の研究』所収(法蔵館、1970.5)
和島芳男	叡尊の釈迦堂について	『金沢文庫研究』通巻43号	1959.2	臨川書店復刻、1986.11
西川新次	大円寺の清凉寺式釈迦像	『MUSEUM』第100号	1959.7	
木宮之彦	入宋僧齋然の事蹟(上)(下)	『日本歴史』第133号、第134号	1959.7、8	

和島芳男	大円寺釈迦像の原所在について－観 尊釈迦堂再論－	『金沢文庫研究』通巻50号	1959.11	臨川書店復刻、1986.11
渋谷二郎	清涼寺式釈迦像とは	『金沢文庫研究』第8巻第10～11 号（通巻84号）	1962.11	臨川書店復刻、1986.11
貫達人	『鎌倉の廃寺 諸宗の部－鎌倉国宝館 論集第6－』	鎌倉市教育委員会・鎌倉国宝館	1962.12	
熊原政男	上総三ヶ谷永興寺	『金沢文庫研究』第9巻第8号（通 巻93号）	1963.8	臨川書店復刻、1986.11
小林智昭	忉利天説話の考察－金刀本保元物語 をめぐって－	同『中世文学の思想』（至文堂）	1964.5	
佐々木剛三	『清涼寺』	中央公論美術出版	1965.3	
倉田文作	『仏像のみかた〈技法と表現〉』	第一法規出版	1965.7	
平林盛得	慶滋保胤の死－参河入道寂照の入宋 に関連して－	『日本仏教』第21号	1965.8	同『慶滋保胤と浄土思想』所収「 慶滋保胤の死－三河入道寂照の 入宋に関連して－」（吉川弘文館、 2001.8）
猪川和子	関東の清涼寺式釈迦像	『美術研究』第237号	1965.10	同『日本古彫刻史論』所収「関 東の清涼寺式釈迦如来像」（講談 社、1975.11）
由水常雄	清涼寺・釈迦如来立像の胎内納入物 のガラスについて	『美術史研究』第4冊	1966.3	
丸尾彰三郎他	『日本彫刻史基礎資料集成 平安時代 造像銘記篇第1巻 図版・解説』	中央公論美術出版	1966.6	
奈良国立博物 館	『請来美術図録』	大塚巧芸社	1967.11	
高橋貞一	清涼寺釈迦仏の説話について	『鷹陵』第23号	1968.12	同『高橋貞一国文学論集 古稀記 念』所収（高橋貞一博士古稀記 念会、1982.2）
たなかしげひ さ	清涼寺釈迦檀像様説－付 さが式釈 迦像と論文の略年表・分布一覧表	『仏教芸術』74号	1970.2	
塚本善隆	入宋の聖たち 齋然、寂照、成尋	『日本と世界の歴史 第7巻 10世 紀』（学習研究社）	1970.4	
瓜生等勝	原宝物集を求めて（その一）－嵯峨 釈迦説話について－	『下商研究紀要』創刊号	1970.9	
小野勝年	敦煌の釈迦瑞像図	『龍谷史壇』第63号	1970.9	
瓜生等勝	原宝物集を求めて（その二）－嵯峨 釈迦詣テ巡道談の原形－	『下商研究紀要』第2号	1970.12	
	『清涼寺（嵯峨釈迦堂）』	社団法人清風会	1972.11	
金沢邦夫	齒吹如来像の表現とその意義	『美術史研究』第10冊	1973.3	
倉田文作	『日本の美術 第86号 像内納入品』	至文堂	1973.7	
塚本善隆	嵯峨清涼寺の釈迦如来像胎蔵の鏡	『国立博物館ニュース』第315号	1973.8	
猪川和子	東国の清涼寺式釈迦如来像	『三浦古文化』第14号	1973.9	同『日本古彫刻史論』所収「東北・ 中部の清涼寺式釈迦如来像」（講 談社、1975.11）
平林盛得	（資料紹介）優填王所造梅檀釈迦瑞 像歴記－附 西郊清涼寺瑞像流記－	『書陵部紀要』第25号	1974.3	
前田元重	清涼寺式釈迦如来像現存表	『金沢文庫研究紀要』第11号	1974.3	臨川書店復刻、1989.1
蔵田蔵	奈良国立博物館特別展 仏像と像内 納入品	『月刊文化財』127号	1974.4	
上原昭一	仏像胎内納入物について	『MUSEUM』第288号	1975.3	
三田全信	嵯峨念仏房と清涼寺	『鷹陵史学』第1号	1975.3	
石原明	清涼寺釈迦立像納入の内臓模型	『MUSEUM』第289号	1975.4	
田中健夫	宋との関係の推移	同『中世対外関係史』（東京大学 出版会）	1975.4	

清水善三	清凉寺式釈迦像	『日本美術工芸』第440号	1975.5	
石原明	清凉寺釈迦立像納入の内臓模型(続)	『MUSEUM』第293号	1975.8	
上原昭一	胎内納入品	石田茂作監修『新版仏教考古学講座 第4巻 仏像』(雄山閣出版)	1976.2	
中村直勝	寺社の出開帳(上)(下) - 嵯峨釈迦堂の場合 -	『日本美術工芸』第451号、第452号	1976.4、5	同『中村直勝著作集 第12巻 歴史の発見(下)』所収「寺社の出開帳 - 嵯峨釈迦堂の場合 -」(淡交社、1979.1)
布村一夫	近代神話学の樹立と集成(上)(下) - 奄然が献上した『王年代紀』 -	『歴史評論』第318号、第319号	1976.10、11	
森克己	東大寺僧奄然の入宋への志向	『禅研究所紀要』第6・7合併号	1976.12	
森克己	奄然在唐記について	立正大学史学会創立五十周年記念事業実行委員会編『宗教社会史研究』(雄山閣出版)	1977.10	
瀬戸内寂聴・鵜飼光順	『古寺巡礼京都21 清凉寺』	淡交社	1978.2	
水野恭一郎・中井真孝	浄土宗寺院古文書纂	『仏教大学研究紀要』第62号	1978.3	
毎日新聞社「重要文化財」委員会事務局	『重要文化財 別巻Ⅱ 像内納入品』	毎日新聞社	1978.3	
中野玄三	宋請来図像の伝播 - 長寛三年般若十六善神図像を中心に -	『国華』第1026号	1979.8	同『日本仏教絵画研究』所収(法蔵館、1982.11)
田中嗣人	嵯峨釈迦如来梅檀瑞像三国伝来記	『同志社大学博物館学年報』第11号	1980.3	
小杉一雄	内臓納入の仏像	同『中国仏教美術史の研究』(新樹社)	1980.4	
水野恭一郎・中井真孝	『京都浄土宗寺院文書』	同朋舎出版	1980.7	
荒木計子	入宋僧奄然と清凉寺建立の諸問題(上)	『学苑』491号	1980.11	
荒木計子	入宋僧奄然と清凉寺建立の諸問題(下) - 帰国後の奄然と義蔵の行動 -	『学苑』492号	1980.12	
清水真澄	五臓六腑のある宋代木造菩薩半跏像	『仏教芸術』135号	1981.3	
小野勝年	日本の求法巡礼僧たちが見た中国の仏寺	『龍谷史壇』第79号	1981.3	
藤善真澄	成尋と楊文公談苑	関西大学東西学術研究所編『関西大学東西学術研究所創立三十周年記念論文集』(関西大学出版部)	1981.12	同『參天台五臺山記の研究(関西大学東西学術研究所研究叢刊26)』所収(関西大学出版部、2006.3)
宮崎法子	伝奄然将来十六羅漢図考	鈴木敬先生還暦記念会編『鈴木敬先生還暦記念 中国絵画史論集』(吉川弘文館)	1981.12	
石上英一	日本古代一〇世紀の外交	井上光貞・西嶋定生・甘粕健・武田幸男編『東アジア世界における日本古代史講座 第7巻 東アジアの変貌と日本律令国家』(学生社)	1982.1	
荻野三七彦	僧奄然の結縁状	同『古文書研究 - 方法と課題 -』(名著出版)	1982.1	
佐々木令信	入宋僧奄然の帰京に関する覚書	『大谷学報』第61巻第4号	1982.2	
野瀬文子	京都嵯峨清凉寺釈迦如来像について(一) - 法濟大師奄然伝 -	『鶴見大学紀要』第19号第4部人文・社会篇	1982.3	
京都国立博物館	『特別展覧会 釈迦信仰と清凉寺 目録』	京都新聞社	1982.3	
中野玄三	京都国立博物館特別展「釈迦信仰と清凉寺」	『月刊文化財』223号	1982.4	
野瀬文子	京都嵯峨清凉寺釈迦如来像について(二) - 清凉寺式釈迦像の造像 -	『鶴見大学紀要』第20号第4部人文・社会篇	1983.3	
安田洋子	金刀比羅本『保元物語』の一考察 - 嵯峨釈迦説話をめぐって -	『軍記と語り物』第19号	1983.3	

木宮之彦	『入宋僧齋然の研究－主としてその隨身品と将来品－』	鹿島出版会	1983.6	
猪川和子	西国の清凉寺式釈迦如来像 上・下	『美術研究』第324号、第327号	1983.6、 1984.3	
細川涼一	法金剛院導御の宗教活動	『仏教史学研究』第26巻第2号	1984.3	同『中世の律宗寺院と民衆（中世史研究選書）』所収（吉川弘文館、1987.12）
多賀宗集	（書評）木宮之彦著『入宋僧齋然の研究』	『日本歴史』第432号	1984.5	
猪川和子	愛媛の清凉寺式釈迦如来像	『美術研究』第330号	1984.12	
成田俊治	清凉寺式釈迦像を中心とする釈迦信仰について	『日本仏教学会年報』第50号	1985.3	
久野健	『造像銘記集成』	東京堂出版	1985.10	
細川涼一	導御・嵯峨清凉寺融通大念仏会・「百万」	『文学』第54巻第3号	1986.3	
熊田由美子	東大寺南大門仁王像の図像と造形－運慶と宋仏画－	『南都仏教』第55号	1986.3	
宮崎法子	宋代仏画史に於ける清凉寺十六羅漢像の位置	『東方学報 京都』第58冊	1986.3	
宮田寿栄	説話の流传－清凉寺釈迦像縁起譚をめぐって－	『仏教文学』第10号	1986.3	
石原道博	『新訂 旧唐書倭国日本伝・宋史日本伝・元史日本伝－中国正史日本伝(2)－』	岩波書店	1986.4	
肥田路美	初唐時代における優曇王像－玄奘の釈迦像請来とその受容の一相－	『美術史』第120冊	1986.4	
中島秀典	『宝物集』における嵯峨清凉寺釈迦像縁起譚の考察－その本仏説をめぐって－	『緑岡詞林』第10号	1986.4	
王雲海・張徳宗（鈴木貴子訳）	宋代中日関係史上における齋然と栄西の役割	藤維藻・王仲華・奥崎裕司・小林一美編『東アジア世界史探究』（汲古書院）	1986.12	
村井章介	中世における東アジア諸地域との交通	朝尾直弘・網野善彦・山口啓二・吉田孝編『日本の社会史 第1巻 列島内外の交通と国家』（岩波書店）	1987.1	同『東アジア往還 漢詩と外交』所収（朝日新聞社、1995.3）
木宮之彦	日宋交通の展開	土田直鎮・石井正敏編『海外視点・日本の歴史5 平安文化の開花』（ぎょうせい）	1987.3	
梶谷亮治	十六羅漢像について	『仏教芸術』172号	1987.5	
木宮之彦	『日宋文化交流史－主として北宋を中心に－』	鹿島出版会	1987.10	
猪川和子	清凉寺釈迦如来像と模刻像	田村圓澄先生古稀記念会編『東アジアと日本 考古・美術編』（吉川弘文館）	1987.12	
森猛	豊後国直入郷と領家清凉寺	『史学論叢』第18号	1988.5	
高木豊	入中僧の母たち	同『仏教史の中の女人』（平凡社）	1988.12	
山田磯夫	中国の優曇王思慕像について－檀像解釈に関する一考察－	『美術史研究』第26冊	1988.12	
山口修	齋然の入宋と上表文	『仏教文化研究所年報』第9号	1991.3	
水野敬三郎	日本彫刻史上における定朝による転換	『国際交流美術史研究会第9回シンポジウム 美術史における過渡期と転換期』	1991.3	同『日本彫刻史研究』所収（中央公論美術出版、1996.1）
長岡龍作	仏像表現における「型」とその伝播（上）（下）－平安初期菩薩形彫刻に関する一考察－	『美術研究』第351号、第352号	1992.1、 2	
石井正敏	入宋巡礼僧	荒野泰典・石井正敏・村井章介編『アジアの中の日本史Ⅴ 自意識と相互理解』（東京大学出版会）	1993.1	
山口修	「齋然入宋求法巡礼行並瑞像造立記」考	『仏教学会紀要』創刊号	1993.3	

柳井滋	親への思い－奄然の願文－	和漢比較文学会編『源氏物語と漢文学（和漢比較文学叢書第12巻）』（汲古書院）	1993.10	
棚橋光男	胎内納入品をめぐる断章－人は仏像に何を入れたか－	『金沢大学附属図書館報「こだま」』第111号	1993.10	同『古代と中世のはざまで－時代を繋ぐ王朝知識人』所収（北国新聞社、1997.12）
松浦正昭	天台薬師像の成立と展開	『美術史学』第15号、第16号	1994.3、1995.3	
江戸英雄	うつは物語と〈仏国土意識〉－後藤漂流の物語と奄然入唐願文との比較から－	『日本文学』第44巻第2号	1995.2	
荒木計子	奄然将来の五台山文殊の行方	『学苑』668号	1995.9	
荒木計子	奄然将来“五台山文殊”と「延暦寺文殊楼」及び「文殊会」	『学苑』674号	1996.3	
山口修	奄然伝および「求法巡礼行」考補遺	『仏教学会紀要』第4号	1996.3	
泉武夫	清凉寺版画弥勒図像と二つの彩色弥勒画像	『国際交流美術史研究会第14回シンポジウム 仏教美術史研究における「図像と様式」』	1996.3	
中島秀典	清凉寺釈迦像縁起譚の展開－説話から縁起へ－	『宝物集研究』第1集	1996.5	
奥健夫	清凉寺釈迦如来像の受容について	『鹿島美術研究』年報第13号別冊	1996.11	
木宮満彦	入宋僧奄然の生涯	『常葉学園富士短期大学研究紀要』第7号	1996.11	
泉武夫	異色の弥勒菩薩画像－弥勒図像の一系譜－	『学叢』第19号	1997.3	
有馬嗣朗	入宋僧の型－北宋期の三人の入宋僧を中心として－	『東海仏教』第42輯	1997.3	
稲本泰生	優填王像東伝考－中国初唐期を中心に－	『東方学報 京都』第69冊（京都大学人文科学研究所紀要第131冊）	1997.3	
木宮満彦	入宋僧奄然の事績	『常葉学園富士短期大学研究紀要』第8号	1997.3	
荒木計子	奄然将来の宋代木版画「文殊像」について	『昭和女子大学文化史研究』創刊号	1998.3	
石井正敏	入宋僧奄然のこと－歴史上の人物の評価をめぐる－	『古文書研究』第47号	1998.4	
山田昭全	宝物集の釈迦像将来譚をめぐる－清凉寺釈迦瑞像は直伝か二伝か－	石橋義秀・寺川真知夫・広田哲通・三村晃功編『仏教文学とその周辺』（和泉書院）	1998.5	
木宮満彦	入宋僧奄然の将来品（一）（二）	『常葉学園富士短期大学研究紀要』第11号、第12号	1998.11、1999.3	
長岡龍作	清凉寺釈迦如来立像	小川裕充・弓場紀知責任編集『世界美術大全集・東洋編 第5巻 五代・北宋・遼・西夏』（小学館）	1998.12	
有馬嗣朗	入宋僧の系譜	『文研会紀要』第10号	1999.3	
村井章介	『中世日本の内と外』	筑摩書房	1999.4	
上川通夫	一切経と中世の仏教	『年報 中世史研究』第24号	1999.5	同『日本中世仏教史料論』所収（吉川弘文館、2008.2）
図書編集部	『国宝・重要文化財大全4 彫刻（下巻）』	毎日新聞社	1999.7	
山田昭全	宝物集と法然伝－嵯峨清凉寺釈迦像将来譚は宝物集からの引用－	『豊山学報』第43号	2000.3	
小川裕充	北宋時代の神御殿と宋太祖・仁宗坐像について－その東アジア世界的普遍性	『国華』第1255号	2000.5	
上川通夫	末法思想と中世の「日本国」	歴史学研究会編『シリーズ歴史学の現在5 再生する終末思想』（青木書店）	2000.11	
内田啓一	宋請来版画と密教図像－応現観音図と清凉寺釈迦像納入版画を中心に－	『仏教芸術』254号	2001.1	
上川通夫	中世仏教と「日本国」	『日本史研究』第463号	2001.3	同『日本中世仏教形成史論』所収（校倉書房、2007.10）

三木紀人	清涼寺釈迦如来の噂など	『駒沢大学 仏教文学研究』第4号	2001.3	
皿井舞	模刻の意味と機能－大安寺釈迦如来像を中心に	『研究紀要』第22号（京都大学文学部美学美術史学研究室）	2001.3	
奥健夫	如来の髪型における平安末～鎌倉初期の一動向－波状髪の使用をめぐる	『仏教芸術』256号	2001.5	
長岡龍作	清涼寺釈迦如来像と北宋の社会	『国華』第1269号	2001.7	
上林直子	中世清涼寺釈迦如来像模刻の思想的背景	『歴史の広場－大谷大学日本史の会誌－』第4号	2001.7	
吉川宣時	「本居宣長随筆第二巻」における「宋史日本伝」の抄録について	『日本社会史研究』53号	2001.10	
嶋本尚志	斎然の入宋と清涼寺建立について－斎然をめぐる人的ネットワーク－	『博物館学年報』第33号	2001.12	
清水真澄	岐阜・即心院の清涼寺式釈迦如来像	『仏教芸術』260号	2002.1	
甲田有叶	恵果和尚以後の密教僧たち	『高野山大学密教文化研究所紀要』第15号	2002.2	
上川通夫	斎然入宋の歴史的意義	『愛知県立大学文学部論集（日本文化学科編第4号）』第50号	2002.3	同『日本中世仏教形成史論』所収（校倉書房、2007.10）
皿井舞	平安時代中期における光背意匠の転換－平等院鳳凰堂阿弥陀如来像光背における雲文の成立を中心に－	『美術史』第152冊	2002.3	
村上紀夫	中近世の一山寺院と本願－嵯峨釈迦堂清涼寺をめぐる－	『新しい歴史学のために』第249号	2003.4	
中川真弓	清涼寺の噂－『宝物集』釈迦栴檀像譚を起点として－	『説話文学研究』第38号	2003.6	
中川真弓	朗詠注と太子伝における「仏法最初の釈迦像」譚	『待兼山論叢（文学篇）』第37号	2003.12	
小島裕子	五台山憧憬－追想、入宋僧斎然の聖地化構想－	朝枝善照先生華甲記念論文集刊行会編『朝枝善照博士還暦記念論文集 仏教と人間社会の研究』（永田文昌堂）	2004.3	
手島崇裕	入宋僧の性格変遷と平安中後期朝廷－成尋の「密航」から	『8－17世紀の東アジア地域における人・物・情報の交流－海域と港市の形成、民族・地域間の相互認識を中心に－（上）（平成12年度～平成15年度科学研究費補助金（基盤研究（A）（1））研究成果報告書）』（研究代表者村井章介、東京大学大学院人文社会系研究科）	2004.3	
中川真弓	『宝物集』栴檀像震旦将来譚考	『語文』第82輯	2004.6	
河内春人	『新唐書』日本伝の成立	『東洋学報』第86巻第2号	2004.9	
奥健夫	生身仏像論	長岡龍作編『講座日本美術史 第4巻 造形の場』（東京大学出版会）	2005.9	
進池美緒	像内納入品からみた清涼寺釈迦如来像について	『文化財学雑誌』第2号	2006.3	
李守愛	平安末期における「入宋僧」斎然の将来物とその文化的影響	『駒沢史学』第66号	2006.3	
濱田瑞美	中国初唐時代の洛陽周辺における優曇王像について	『仏教芸術』287号	2006.7	
河内春人	『王年代紀』をめぐる覚書	『歴史学研究』826号	2007.4	
坂上康俊	奈良平安時代人口データの再検討	『日本史研究』第536号	2007.4	
赤尾栄慶	（口絵解説）金剛般若波羅蜜経 一帖	『日本歴史』第713号	2007.10	
手島崇裕	入宋僧による虚構の創作と三国世界観－文学表現中の天竺と五臺山から	『東アジア海域史研究における史料の発掘と再解釈－古地図・偽使史料・文学表現－（平成17年度～平成19年度科学研究費補助金 基盤研究（B）研究成果報告書）』（研究代表者高橋公明、名古屋大学大学院国際開発研究科）	2008.3	

牧野和夫	十二世紀後末期の日本船載大藏經から 奄然将来大藏經をのぞむ	吉原浩人・王勇編『海を渡る天 台文化』(勉誠出版)	2008.12
坂上康俊	八～十一世紀日本の南方領域問題	九州史学研究会編『境界からみ た内と外』『九州史学』創刊50周 年記念論文集 下』(岩田書院)	2008.12
奥健夫	『日本の美術 第513号 清凉寺釈迦如 来像』	至文堂	2009.2

(かわぞえ・しょうじ もり・てつや 太宰府市公文書館構想調査研究委員会顧問／九州大学名誉教授、
福岡市史編集委員会古代専門部会副部会長・西南学院大学非常勤講師)